

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	北海道大学
設置者名	国立大学法人北海道大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
文学部	人文科学科 (哲学・文化学コース)	夜・通信	200	—	46	246	13	
	人文科学科 (歴史学・人類学コース)	夜・通信		—	38	238	13	
	人文科学科 (言語・文学コース)	夜・通信		—	24	224	13	
	人文科学科 (人間科学コース)	夜・通信		—	52	252	13	
教育学部	教育学科	夜・通信		—	98	298	13	
法学部	法学課程 (法専門職コース)	夜・通信		—	31	231	13	
	法学課程 (総合法政コース)	夜・通信		—	31	231	13	
経済学部	経済学科	夜・通信		—	10	210	13	
	経営学科	夜・通信		—	10	210	13	
理学部	数学科	夜・通信		—	4	204	13	
	物理学科	夜・通信	—	3	203	13		
	化学科	夜・通信	—	14	214	13		
	生物科学科 (生物学専修分野)	夜・通信	—	3	203	13		

	生物科学科 (高分子機能学専修分野)	夜・ 通信	—	11	211	13	
	地球惑星科学科	夜・ 通信	—	6	206	13	
医学部	医学科	夜・ 通信	—	35.5	235.5	19	
	保健学科 (看護学専攻)	夜・ 通信	—	60	260	13	
	保健学科 (放射線技術科学専攻)	夜・ 通信	—	68	268	13	
	保健学科 (検査技術科学専攻)	夜・ 通信	—	43	243	13	
	保健学科 (理学療法学専攻)	夜・ 通信	—	37	237	13	
	保健学科 (作業療法学専攻)	夜・ 通信	—	56	256	13	
歯学部	歯学科	夜・ 通信	—	116	316	19	
薬学部	薬科学科	夜・ 通信	—	27.3	227.3	13	
	薬学科	夜・ 通信	—	63	263	19	
工学部	応用理工系学科 (応用物理工学コース)	夜・ 通信	—	11	211	13	
	応用理工系学科 (応用化学コース)	夜・ 通信	—	17	217	13	
	応用理工系学科(応用マ テリアル工学コース)	夜・ 通信	—	15	215	13	
	情報エレクトロニクス学 科(情報理工学コース)	夜・ 通信	—	13	213	13	
	情報エレクトロニクス学 科(電気電子工学コース)	夜・ 通信	—	16	216	13	
	情報エレクトロニクス学 科(生体情報コース)	夜・ 通信	—	12	212	13	
	情報エレクトロニクス学 科(メディアネットワー クコース)	夜・ 通信	—	21	221	13	
	情報エレクトロニクス学 科(電気制御システムコ ース)	夜・ 通信	—	20	220	13	
	機械知能工学科 (機械情報コース)	夜・ 通信	—	15	215	13	
	機械知能工学科 (機械システムコース)	夜・ 通信	—	9	209	13	
	環境社会工学科 (社会基盤学コース)	夜・ 通信	—	31	231	13	
	環境社会工学科 (国土政策学コース)	夜・ 通信	—	31	231	13	

	環境社会工学科 (建築都市コース)	夜 通信	—	56	256	13	
	環境社会工学科 (環境工学コース)	夜 通信	—	18	218	13	
	環境社会工学科(資源循環システムコース)	夜 通信	—	14	214	13	
農学部	生物資源科学科	夜 通信	—	9	209	13	
	応用生命科学科	夜 通信	—	9	209	13	
	生物機能化学科	夜 通信	—	16	216	13	
	森林科学科	夜 通信	—	13	213	13	
	畜産科学科	夜 通信	—	24	224	13	
	生物環境工学科	夜 通信	—	22	222	13	
	農業経済学科	夜 通信	—	13	213	13	
獣医学部	共同獣医学課程	夜 通信	—	84	284	19	
水産学部	海洋生物科学科	夜 通信	—	50	250	13	
	海洋資源科学科	夜 通信	—	45	245	13	
	増殖生命科学科	夜 通信	—	46	246	13	
	資源機能化学科	夜 通信	—	47	247	13	
(備考)							

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<http://educate.academic.hokudai.ac.jp/syllabus/SYLLABUS.htm>
 (「実務経験のある教員等による授業科目」の絞り込み検索により抽出可能)

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	北海道大学
設置者名	国立大学法人北海道大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.hokudai.ac.jp/introduction/gov/yakuin.html

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	株式会社役員	R4.4.1 ～ R6.3.31	<u>担当する職務内容</u> 資産管理運用統括 <u>期待する役割</u> 総長を補佐して本学の業務を掌理する。
常勤	国立研究開発法人役員	R4.4.1 ～ R6.3.31	<u>担当する職務内容</u> 事務統括、広報・社会連携統括、リスク管理統括 <u>期待する役割</u> 総長を補佐して本学の業務を掌理する。
非常勤	株式会社役員	R4.4.1 ～ R6.3.31	<u>担当する職務内容</u> 経営改革 <u>期待する役割</u> 総長を補佐して本学の業務を掌理する。
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	北海道大学
設置者名	国立大学法人北海道大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>本学では、各学部で定めている成績評価基準のガイドラインにおいて、授業計画(シラバス)への記載方法を示しているほか、シラバス作成にあたっての留意事項を学内で共有し、統一的な運用を図っている。</p> <p>なお、作成したシラバスについては、組織的な点検体制を整備したうえで内容を確認することとしている。</p> <p>各学部の授業計画(シラバス)は、同ガイドライン及び留意事項に基づき、開講前年度の12月頃から作成を開始し、概ね3月初旬頃に本学ホームページに公表している。</p> <p>授業計画(シラバス)には以下の項目を記載することを必須としており、各担当教員は、前年度における成績評価の分布状況や授業アンケートの結果等を踏まえて翌年度の授業計画(シラバス)を作成している。</p> <p>また、近年の大学のグローバル化による留学生の増加を受け、2019年度から、学部・大学院のすべての科目は、日本語に加えて英語の授業計画(シラバス)も作成することとした。</p> <p><授業計画(シラバス)への記載項目></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ナンバリングコード ・キーワード ・授業の目標 ・到達目標 ・授業計画 ・準備学習(予習・復習)等の内容と分量 ・成績評価の基準と方法 ・有する実務経験と授業への活用 ・実務経験のある教員等による授業科目該当有無 	
授業計画書の公表方法	http://educate.academic.hokudai.ac.jp/syllabus/SYLLABUS.htm

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

本学では、全学的な方針に則して各学部において策定した成績評価基準のガイドラインに基づき、授業科目ごとに適切な成績評価を行っている。

各学部では、当該ガイドラインの中で「成績評価の基準」、「成績評価の方法」及び「授業計画（シラバス）への記載方法」について予め定めており、さらに、授業計画（シラバス）の記載項目である「成績評価の基準と方法」に関して、試験のみによる評価の場合、試験及び授業への参加意欲等による評価の場合、レポートによる評価の場合、アクティブ・ラーニング科目の場合等、様々な形態に応じた評価方法の記載例を明示している。

各授業担当教員は、それぞれの授業科目に応じた「成績評価の基準と方法」を授業計画（シラバス）に記載し、当該基準に則して学生の学修成果を厳格かつ適正に評価し、単位を認定している。

また、国際通用性の向上ときめ細かな成績評価を実現するため、「A・B・C・D・F」に+、-を付した11段階により評価を行っている。

この11段階評価に係る、評語、学修成果の質、グレードポイント（G P）及び100点方式による素点の目安について、「北海道大学におけるG P A制度の取扱いに関する要項」として本学ホームページに公表している。

「北海道大学におけるG P A制度の取扱いに関する要項」より抜粋

評語	学修成果の質	G P	100点方式 による素点 の目安
A ⁺	授業科目の到達目標のすべての面で秀逸な学修成果をあげた。	4.3	95—100
A	授業科目の到達目標のすべての面で優秀な学修成果をあげた。	4.0	90—94
A ⁻	授業科目の到達目標のほとんどの面で優秀な学修成果をあげたが、一部において良好な結果にとどまった。	3.7	85—89
B ⁺	授業科目の到達目標のすべての面で良好な学修成果をあげた。	3.3	80—84
B	授業科目の到達目標のほとんどの面で良好な学修成果をあげたが、一部において良好とまではいえない結果にとどまった。	3.0	75—79
B ⁻	授業科目の到達目標のいくつかの面で良好な学修成果をあげたが、全体として良好とまではいえない結果にとどまった。	2.7	70—74
C ⁺	授業科目の到達目標のほとんどの面で合格となる最低限の学修成果であったが、良好な面がいくつかあった。	2.3	65—69
C	授業科目の到達目標のすべての面で合格となる最低限の学修成果であった。	2.0	60—64
D	授業科目の到達目標全体として合格となる最低限の学修成果より少し低い結果であった。	1.0	50—59
D ⁻	授業科目の到達目標のほとんどまたはすべての面で合格となる最低限の学修成果はなかった。	0.7	0—49
F	学修成果を示す証拠はなかった。 例) 試験の未受験、授業出席回数不足	0	評価無

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

本学では、2005年度から全学部においてG P A制度を実施している。G P Aの算出方法は、学生便覧により学生に周知するとともに、「北海道大学におけるG P A制度の取扱いに関する要項」として本学ホームページに公表しており、予め定めている方法に則り、各学生のG P Aの数値を算出している。

また、前述のとおり、2015年度より、きめ細やかな評価や国際通用性の観点から、従来の5段階評価から現行の11段階評価とし、その取扱いについても学生便覧や本学ホームページにおいて公表している。

主に1年次学生が履修する全学教育科目においては、11段階評価における成績評価分布の平均G Pの目標値を定め、成績評価の偏り等について毎学期点検を行っている。

さらに、各学部の卒業要件に関しては、卒業に必要な単位数の要件に加え、卒業時に必要なG P Aの基準をそれぞれの学部（国家試験のある一部の医系学部学科を除く。）で定めるとともに、各学期の履修登録時には、一定のG P Aに満たない学生への特別修学指導を行う等、適切な運用を行っている。

<G P Aの種類と算出方法>

「北海道大学におけるG P A制度の取扱いに関する要項」より抜粋

第3条 G P Aは、当該学期における学修の状況及び成果を示す指標としてのG P A（以下「学期G P A」という。）並びに在学中における全期間の学修の状況及び成果を示す指標としてのG P A（以下「通算G P A」という。）の2種類とする。

2 学期G P A及び通算G P Aの計算式は、次の各号の定めるところによるものとし、算出された数値の小数点第3位以下は切り捨てるものとする。

(1) 学期G P Aの計算式

学期G P A = (その学期に評価を受けた科目で得たG P × その科目の単位数) の合計 / その学期に評価を受けた科目の単位数の合計

(2) 通算G P Aの計算式

通算G P A = ((各学期に評価を受けた科目で得たG P × その科目の単位数) の合計) の総和 / (各学期に評価を受けた科目の単位数の合計) の総和

客観的な指標の
算出方法の公表方法

https://www.hokudai.ac.jp/jimuk/reiki/reiki_honbun/u010RG00000819.html

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本学が建学の精神として掲げている4つの基本理念(「フロンティア精神」、「国際性の涵養」、「全人教育」及び「実学の重視」)に基づき、学部ごとに教育目標を定め、目標に応じて適切な教育課程を構築している。この教育課程による学修を通じ、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを示した学位授与水準(学力・能力・資質)を定めており、これらのことを「北海道大学学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」及び「各学部の学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」として策定し、公表している。

各学部では、この「学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」、卒業に必要とする単位の修得状況及び予め定めたGPAの基準を踏まえ、卒業を認定している。

また、各学部で定める「学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」で示した教育目標の到達度を高めるため、各学部において「アセスメント・ポリシー」を策定している。同ポリシーに基づき、教学アセスメント(教育に関する各種データ・資料等の収集、分析、点検、評価)を実施することにより、教育の内部質保証や教育改善に関するPDCAサイクルを担保し、教育の質や学修成果の水準を継続的に保証する体制を整えている。

「北海道大学学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」

北海道大学の学士課程教育は、世界における市民としての自覚をもって社会に参加できること、専門の基礎となる学問やコミュニケーションの方法を身につけること、専門分野を広い視野の下に学ぶことをめざした教育を進めています。それを通じて、国際的に通用する高度な学問的素養をもち、的確な判断力とリーダーシップを発揮する人材を育成します。すなわち、本学は卒業生に対し、多様な文化を理解し、人類の未来に寄与する創造的かつ指導的役割を担いうる人材であることを求めます。

こうした人材を育成するため、本学では、4つの基本理念の下、学部ごとに教育理念、教育目標を定め、常に先進的な教育を行います。各学部の教育課程により学業を修め、学部・学科等ごとに定められた学位授与水準(学力・能力・資質)を満たし、上記能力を持つ人材として認められる学生に対し、学士の学位を授与します。

※ 各学部の学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)については、「様式第2号の4-①(3)①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要」に掲載。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

<https://www.hokudai.ac.jp/introduction/plan/policy/threehoushin/>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	北海道大学
設置者名	国立大学法人北海道大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.hokudai.ac.jp/pr/johokokai/pub/22jo/finance/
収支計算書又は損益計算書	https://www.hokudai.ac.jp/pr/johokokai/pub/22jo/finance/
財産目録	—
事業報告書	https://www.hokudai.ac.jp/pr/johokokai/pub/22jo/finance/
監事による監査報告(書)	https://www.hokudai.ac.jp/pr/johokokai/pub/22jo/finance/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:第4期中期目標・中期計画実行計画(令和5年度),対象年度:2023(令和5)年度)
公表方法: https://www.hokudai.ac.jp/introduction/plan/chuki/folder3/
中長期計画(名称:第4期中期目標・中期計画,対象年度:2022年度~2027年度)
公表方法: https://www.hokudai.ac.jp/introduction/plan/chuki/folder3/

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:北海道大学では、文部科学大臣の認証を受けた評価機関が定める評価基準等を参照し、自己点検・評価を実施している。自己点検・評価結果は、本学HP(https://www.hokudai.ac.jp/pr/Quality/tenken/)により公表している。

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.hokudai.ac.jp/pr/Quality/accredited/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.hokudai.ac.jp/pr/johokokai/pub/gakkyoho/gakkyoho3/index.html ）
（概要） 人類の思想、歴史、社会及び文化に対する認識を深めるため、人文科学の諸領域において専門的な教育研究を行うことにより、次代の社会を担う人材を育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.hokudai.ac.jp/introduction/plan/policy/threehoushin/dpcp.html ）
（概要） 学位授与水準として定める以下の能力を身に付け、かつ、所定の基準を満たした学生に対し、学士の学位を授与します。
【知識・理解】 <ul style="list-style-type: none">・ 専門分野に関して十分な学識を身につけるとともに、「人間とは何か」の観点から、人類の歴史、社会、文化及び思想に関して幅広い関心を持ち、知識を修得することができる。・ 修得した知識を手段として、自己および自己を取り巻く環境が直面する問題を的確に理解し、対処することができる。
【汎用的技能】 <ul style="list-style-type: none">・ 日本語ないし外国語を用いて、文献・資料を正確かつ批判的に読み解き、要点をつかむことができる。・ 日本語ないし外国語を用いて、自分の主張をまとめ、口頭または文章にて論理的かつわかりやすく提示することができる。・ 情報通信技術を活用し、多様な情報を収集、選別し、問題解決に役立てることができる。
【態度・志向性】 <ul style="list-style-type: none">・ 人間の多様性を認め、自分とは意見を異にする他者の主張に耳を傾け、理解に努めるとともに、自分の立場を明晰に説明できる。・ 市民として、他者と協調しながら、社会をよりよいものとしていくために積極的に関与できる。・ 生涯にわたってさまざまな事柄に関心を向け、学び続けることができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.hokudai.ac.jp/introduction/plan/policy/threehoushin/dpcp.html ）
（概要） 文学部では、(1)国際化に直面する新しい時代を生き、その担い手となるに必要な市民的教養を育成し、(2)現代が直面する諸問題を理解するために不可欠な、人類の歴史、社会、文化及び思想に対する深い認識を育成するという教育目標を達成するために、人文科学科を設置し、履修上の区分として、哲学・文化学コース、歴史学・人類学コース、言語・文学コース、人間科学コースを設けています。人文科学科では、全学共通の「全学教育科目」と体系的に配置された「専門科目」をもって、4年間の学士課程における教育課程を編成します。 文学部人文科学科では、学位授与水準に定めた能力を持つ人材を育成することを目標として、以下のとおりカリキュラムを編成し、実施します。 <ul style="list-style-type: none">・ 主に1年次学生を対象とする全学教育科目では、専攻する分野にかかわらず、本学の学生であれば当然身につけておかなければならない共通の素養として、高いコミュニケーション能力、人間や社会の多様性への理解、独創的かつ批判的に考える能力、社会的な

責任と倫理を身につけることを目的として、カリキュラムを編成します。具体的には「一般教育演習」、「総合科目」、「主題別科目」、「外国語科目」、「外国語演習」、「共通科目」に区分される教養科目（コアカリキュラム）を開講します。また、専門科目を学ぶ心構え、基礎知識を身につけることができるように、基礎科目を開講します。

- ・ 2年次以降では、人文科学に関する専門性を身につけるため、学部専門科目を開講します。
- ・ 2年次では、各自が専攻する分野への導入として概論・概説科目を配置するとともに、講義科目、演習科目を開講します。
- ・ 3年次以降では、さらに専門性を高めた講義科目、演習科目を通して文献読解能力、批判的思考法、調査・研究能力を深め、卒業論文に備えるようにします。
- ・ 4年次においてはこれまでの学習の集大成として卒業論文が必修科目として課され、指導教員の指導のもとで計画的に研究・執筆がすすめられます。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<https://www.hokudai.ac.jp/admission/admission-policy2023.pdf>)

(概要)

- ・ 人間社会の多様な営みに対して旺盛な知的好奇心をもっている学生
- ・ 自ら目的意識をもって計画的に勉学に取り組むことのできる学生
- ・ 地域社会や国際社会のなかで率先して自己の能力を役立てたいと考えている学生

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 教育学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.hokudai.ac.jp/pr/johokokai/pub/gakkyoho/gakkyoho3/index.html ）
（概要） 社会及び教育の発展並びに健康及び福祉の向上に寄与するため、教育学の諸領域における理論的かつ実践的な知識を体系的に教授することにより、豊かな人間性を備え、国際的な視野に立った、教育課題に的確に対応し得る人間を育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.hokudai.ac.jp/introduction/plan/policy/threehoushin/dpcp.html ）
（概要） 学位授与水準として定める以下の能力を身に付け、かつ、所定の基準を満たした学生に対し、学士の学位を授与します。 （１）人間の科学を担うにふさわしい総合的な知識と自主的な研究態度 （２）社会の平和と永続的発展に貢献する人格の基礎 （３）人間の科学を開拓するための専門的研究方法 （４）実践的教育課題の解決に資する総合的研究能力
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.hokudai.ac.jp/introduction/plan/policy/threehoushin/dpcp.html ）
（概要） 教育学部では、人間の成長や発達を、人と人の関係および人と社会との関係の中で捉える、人間の科学としての教育学を追求することを理念とし、社会の様々な領域で教育の実践と改善に携わる人材を育成するとともに、教育を通じて平和な世界の実現に寄与する人材を養成することを教育目的とします。この目的は、（１）人間の科学を担うにふさわしい総合的な知識と自主的な研究態度の形成、（２）社会の平和と永続的発展に貢献する人格の基礎の形成、（３）人間の科学を開拓するための専門的研究方法の獲得、（４）実践的教育課題の解決に資する総合的研究能力の育成という具体的な教育目標の達成によって実現され、全学共通の「全学教育科目」と体系的に配置された「専門科目」をもって、４年間の学士課程における教育課程を編成します。 ・主に１年次学生を対象とする全学教育科目では、専攻する分野にかかわらず、本学の学生であれば当然身につけておかなければならない共通の素養として、高いコミュニケーション能力、人間や社会の多様性への理解、独創的かつ批判的に考える能力、社会的な責任と倫理を身につけることを目的として、カリキュラムを編成します。具体的には「一般教育演習」、「総合科目」、「主題別科目」、「外国語科目」、「外国語演習」、「共通科目」に区分される教養科目（コアカリキュラム）を開講します。また、専門科目を学ぶ心構え、基礎知識を身につけることができるように、基礎科目を開講します。 ・２年次以降では、教育学に関する専門性を深めるため、専門科目を開講します。専門科目では、本学部の教育目的である、人間の成長や発達を、人と人の関係および人と社会との関係の中で捉える、人間の科学としての教育学を追求することを目指した教育課程を編成します。 ・２年次第１学期から、教育学の基礎的知識、基本的視座を獲得できるよう、「教育学概説」を専門科目（必修）として配置します。また、「教育学基礎演習」を必修科目として配置し、少人数教育によって自主的な研究態度を養います。 ・これらに加えて、教育基礎論、教育社会科学、教育心理学、健康体育学等の各専門科目（選択必修）を配置し、これらを幅広く履修することによって、人間の科学としての教育学を担うにふさわしい総合的な知識を修得するものとします。 ・２年次第２学期から、少人数形式の「専門演習」を必修科目として配置し、人間の科学を

開拓するための専門的研究方法を身につけ、実践的教育課題の解決に資する総合的能力を養い、4年次には本学部での学修の集大成としての卒業論文を作成するものとします。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：
<https://www.hokudai.ac.jp/admission/admission-policy2023.pdf>）

（概要）

求める学生像

- ・十分な基礎的学力を有しており、人間の科学を担うにふさわしい総合的な知識・技能を習得しようとする学生
- ・人間の科学を開拓する専門的研究方法を獲得し、その方法に基づき教育課題について広い視野から判断するとともに、論理的に思考し表現して社会に貢献しようとする学生
- ・家族、学校、企業、地域、国際社会などにおける教育問題や人間の成長と発達及びそれを支える活動に関心を持ち、多様な価値観を共有して実践的教育課題の解決に挑もうとする学生

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 法学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.hokudai.ac.jp/pr/johokokai/pub/gakkyoho/gakkyoho3/index.html ）
（概要） 法学及び政治学の最先端の研究に基づき、人間が社会を形成していくために必要な知識及び考え方を教授することにより、高度化し、多様化する社会における諸問題を解決する広い視野と能力を有する有為な人材を育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.hokudai.ac.jp/introduction/plan/policy/threehoushin/dpcp.html ）
（概要） 学位授与水準として定める以下の能力を身に付け、かつ、所定の基準を満たした学生に対し、学士の学位を授与します。
法専門職コース 【ア 実定法を中心とする法学・政治学の基礎的素養】 一 七法を中心とする実定法科目の基礎的知識を体系的に習得しており、発展的な実定法科目についても基礎的知識を説明することができる。 二 基礎法学及び政治学についても基礎的な知識を説明することができる。 【イ 法的な分析判断能力】 一 実社会で起こる問題に実定法を適用する場合に必要な資料探索能力及び理論的分析能力を示すことができる。 二 実社会で起こる新たな問題に対して、一定の法的判断を下すことができる。 【ウ コミュニケーション能力及び自主的な学習管理能力】 一 基礎的な教養及び外国語能力を習得している。 二 他者との議論を通じて、他者の意見を理解し、自らの主張を明らかにすることができる。 三 率先して問題を発見し、必要な知識を自主的に習得することができる。
総合法政コース 【ア 法学・政治学に関する幅広い基礎的素養】 一 実定法科目についての基礎的な知識を説明することができる。 二 法学及び政治学を基礎科目から応用科目まで幅広く学習し、基礎的知識を習得している。 【イ 多面的な分析能力】 一 現代社会の抱える問題を多面的に考察するために必要な資料探索能力及び理論的分析能力を示すことができる。 二 現代社会の抱える問題を、現在の我々の立ち位置に縛られることなく、普遍的・学際的・国際的な視座から捉え直して、一定の分析を加えることができる。 【ウ コミュニケーション能力及び自主的な学習管理能力】 一 基礎的な教養及び外国語能力を習得している。 二 他者との議論を通じて、他者の意見を理解し、自らの主張を明らかにすることができる。 三 率先して問題を発見し、必要な知識を自主的に習得することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

<https://www.hokudai.ac.jp/introduction/plan/policy/threehoushin/dpcp.html>

（概要）

法学部では、法学・政治学の基礎的素養を身に付け、幅広い分野で社会の発展を支える人材の育成という教育目標を達成するため、法専門職コース及び総合法政コースを設置しています。これらのコースでは、全学共通の「全学教育科目」と体系的に配置された「専門科目」をもって4年間の学士課程における教育課程を編成します。本学部の専門科目については、コース毎にカリキュラム・ポリシーを定め、それぞれ育成する人材像に沿ったカリキュラムを編成し、実施します。

各コースの教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）は、以下を参照してください。

<https://www.juris.hokudai.ac.jp/general/ug/policy-2.html>

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<https://www.hokudai.ac.jp/admission/admission-policy2023.pdf>

（概要）

求める学生像

- ・法学・政治学に関する知識・技能を身に付け、法律家や行政官、外交官などの専門職に就いて社会に貢献することのできる学生
- ・社会の多様で複雑な問題について多角的な観点から思考することによって適切な判断を行うとともに、それを論理的に表現することによって、問題の解決に進んで取り組むことのできる学生
- ・主体性を持って社会の様々な問題に関心を持ち、広く社会の多様な人々の声に耳を傾けて、彼らと協働して学ぶことのできる知的好奇心の旺盛な学生

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 経済学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.hokudai.ac.jp/pr/johokokai/pub/gakkyoho/gakkyoho3/index.html ）
（概要） 経済社会の発展に寄与するために、経済学及び経営学に関する専門的知識を体系的に教授することにより、経済及び経営に関する幅広い視野、高い倫理観及び豊かな創造力を備えた人材を育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.hokudai.ac.jp/introduction/plan/policy/threehoushin/dpcp.html ）
（概要） 学位授与水準として定める以下の能力を身に付け、かつ、所定の基準を満たした学生に対し、学士の学位を授与します。
<p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文化、社会、社会科学全般について幅広い知識を修得している。 ・ 経済学および経営学について基礎知識を体系的に習得している。 ・ 多様な進化を遂げてきた経済社会の歴史を理解している。 ・ 経済・経営活動の基本となる概念枠組および分析ツールに精通し、それをもとに実際の社会現象（特に経済・経営活動）の背後にある複雑なメカニズムを想像できる。 ・ 経済・経営活動の本質を捉え、実践的かつ妥当性の高い複数の解決案を示すことができる。 <p>【汎用的技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本語での論文作成能力、プレゼンテーション能力を身につけている。 ・ 英語を用いて、多様な背景を持つ人材と意思疎通をすることができる。 ・ 情報コミュニケーション技術の利用について高度な能力を身につけている。 ・ 自らの意見を他者に正確に伝え、合意を形成することができる。 ・ 他者のもつ多様な考え・視点を正確に把握し、建設的な議論を積み重ね、実践的かつ革新的な解決策を示すことができる。 <p>【態度・志向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高度な知識をもとに、実践的な解を示すとともに、集団に率先して関与するリーダーシップ能力をも身につけている。 ・ 地球社会の一員として、広い視野からの最適解を探索でき、自らの持つ知識を社会の問題解決に供することができる。 ・ 自己の良心、社会の規範やルールに従って行動できる。 ・ 卒業後もキャリアを通じて、行為から反省的に学び、自己研鑽を積むことができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.hokudai.ac.jp/introduction/plan/policy/threehoushin/dpcp.html ）
（概要） 経済学科・経営学科では、学位授与水準に定めた能力を持つ人材を育成することを目標として、以下のとおりカリキュラムを編成し、実施します。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 主に1年次学生を対象とする全学教育科目では、専攻する分野にかかわらず、本学の学生であれば当然身につけておかなければならない共通の素養として、高いコミュニケーション能力、人間や社会の多様性への理解、独創的かつ批判的に考える能力、社会的な責任と倫理を身につけることができるようなカリキュラムを編成している。 ・ 2年次以降では、経済・経営分野に関する専門性を深めるため、学部専門科目を開講する。経済学・経営学の基礎知識の修得、経済社会の歴史への理解、複雑な経済・経営現象の本質を捉える能力、現代社会の問題を発見し具体的に解決していく能力を身につけることを目的として、カリキュラムを編成している。具体的には、経済学科では、抽象的

な分析的理論、歴史的研究、現実問題に接近する応用分野など、広く多様な専門領域を体系的に学ぶため、「理論経済」「経済と社会」「経済史」「統計と計量経済」「経済政策」「国際経済」をキーワードとする科目を開講する。また、経営学科では、企業の経営戦略、国際的展開、経営内容の伝達手段である企業会計、さらに経営分析などの理論を体系的に学ぶため、「経営」「経営情報」「会計」をキーワードとする科目を開講する。

- ・ 経済・経営活動を分析する能力を養成するため、3年次以降に演習（以下、ゼミナールと表記する）を開講する。各ゼミナールは、少人数かつ3・4年次に実施するという特徴をもっている。少人数であることにより、個々の学生にあわせた指導を徹底することが可能になっている。
- ・ ゼミナールでは、各教員の専門領域に従って文献講読、データ解析、フィールド・サーベイなど様々な方法が実践され、複眼的な視点から論理的思考力、問題解決力、批判的思考力を身につけることができる。
- ・ 4年次には、卒業論文を必修としている。卒業論文を作成することで、論理的思考力、問題解決力、批判的思考力を一層洗練させ、2年間のゼミナールで学んだことを論文としてまとめる経験が得られる。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<https://www.hokudai.ac.jp/admission/admission-policy2023.pdf>)

（概要）

求める学生像

- ・ 現代社会が抱えている様々な問題に関心があり、それらを解決することで社会に貢献したいと考えている学生
- ・ 経済学や経営学の知識を生かして、社会の様々な地域や分野で人的ネットワークを形成したいと考えている学生

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 理学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.hokudai.ac.jp/pr/johokokai/pub/gakkyoho/gakkyoho3/index.html ）
（概要） 自然科学全般にわたる基礎的な知識及び技術を教授することにより、大学院における修学及び研究に必要な観察力及び創造力を有し、並びに社会に貢献するために必要な自然科学に関する基礎的素養を有する人材を育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.hokudai.ac.jp/introduction/plan/policy/threehoushin/dpcp.html ）
（概要） 理学部では、本学の4つの基本理念（フロンティア精神、国際性の涵養、全人教育、実学の重視）の下、自然科学全般にわたる基礎的な知識及び技術を教授することにより、大学院における修学及び研究に必要な観察力及び創造性を有し、並びに社会に貢献するために必要な自然科学に関する基礎的素養を有する人材を育成することを教育目標としています。 理学部では、この目標とする人材像に求められる具体的な能力（学位授与水準）を学科毎に定め、当該能力を身につけ、かつ、所定の基準を満たした学生に学士の学位を授与します。 各学科の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）は、以下を参照してください。 https://www2.sci.hokudai.ac.jp/4policy
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.hokudai.ac.jp/introduction/plan/policy/threehoushin/dpcp.html ）
（概要） 理学部では、学位授与の方針に掲げた教育目標を達成するため、「数学科」、「物理学科」、「化学科」、「生物科学科」、「地球惑星科学科」の5学科を設置し、このうち生物科学科には履修上の区分として「生物学専修分野」と「高分子機能学専修分野」の2専修分野を設置しています。 これらの学科では、専攻分野によらない共通の素養を身につけるための「全学教育科目」及び広い視野を養いながら専門性を高めるために体系的に配置された「学部専門科目」をもって、4年間の学士課程における教育課程を編成します。 本学部の学部専門科目については、学科毎に教育課程編成・実施の方針を定め、それぞれ育成する人材像に沿ったカリキュラムを編成し、実施します。 各学科の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）は、以下を参照してください。 https://www2.sci.hokudai.ac.jp/4policy
入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.hokudai.ac.jp/admission/admission-policy2023.pdf ）
（概要） 求める学生像 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然に関心を持ち、自然現象のメカニズムを解明したいと考えている学生 ・ 物事を論理的に説明したいと考えている学生 ・ 時流に流されることのない真理を探究したいと考えている学生 ・ 観察や実験が好きで、納得が行くまで観察や実験を続けたいと考えている学生

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 医学部医学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.hokudai.ac.jp/pr/johokokai/pub/gakkyoho/gakkyoho3/index.html ）
（概要） 人類の健康増進に資するための体系的な教育を行うことにより、豊かな人間性、高い倫理観及び国際的視野を備え、医学、医療又は生命科学の実践及び発展に寄与する人材を養成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.hokudai.ac.jp/introduction/plan/policy/threehoushin/dpcp.html ）
（概要） 学位授与水準として定める以下の能力を身に付け、かつ、所定の基準を満たした学生に対し、学士の学位を授与します。 <ul style="list-style-type: none"> （1）医学・医療を支える高い倫理感を身につけている。 （2）人間性を陶冶し患者のもつ悩み・不安・苦痛等に共感する態度を身につけている。 （3）社会の発展に貢献する使命感と責任感を身につけている。 （4）基礎的な医学知識・技術を身につけている。 （5）科学的妥当性・探求心・創造性を身につけている。 （6）生涯学習をつづける習慣・態度を身につけている。 （7）医療におけるチームワークの重要性と、その中の医師の役割を理解している。 （8）後輩に指導するとともに、自らも共に学ぶ態度を身につけている。 （9）異文化との交流や国際交流の重要性を理解している。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.hokudai.ac.jp/introduction/plan/policy/threehoushin/dpcp.html ）
（概要） 医学部医学科では、学位授与水準に定めた能力を持つ人材を育成することを目標として、以下のとおりカリキュラムを編成し、実施します。医学科の学生には、1年次は「医学教養コース」として全学教育科目を開講し、2年次から卒業までの5年間は専門科目を開講します。専門科目では、「基礎医学コース」「臨床医学コース」「臨床実習コース」の3コースを順番にすべて履修することが卒業の要件です。 1. 医学教養コース(全学教育科目) 主に1年次学生を対象とする全学教育科目では、専攻する分野にかかわらず、本学の学生であれば当然身につけておかなければならない共通の素養として、高いコミュニケーション能力、人間や社会の多様性への理解、独創的かつ批判的に考える能力、社会的な責任と倫理を身につけることを目的として、カリキュラムを編成します。 具体的には「一般教育演習」、「総合科目」、「主題別科目」、「外国語科目」、「外国語演習」、「共通科目」に区分される教養科目（コアカリキュラム）を開講します。 また、専門科目を学ぶ心構え、基礎知識を身につけることができるように、基礎科目を開講します。 2. 基礎医学コース 2年次1学期から3年次1学期までの1年半のコースです。このコースでは、人体の正常な構造と機能を学ぶ科目（解剖学、組織学、画像診断学、生理学、生化学）と、病気の発症・進展のメカニズムおよび治療の基本原則を学ぶ科目（微生物学、免疫学、病理学、基礎応用腫瘍学、薬理学）を開講します。 さらに、集団、環境、制度、予防の観点から健康や病気を学ぶ（衛生学、公衆衛生学、法医学）科目と、医学を学ぶ基礎となる科目（医学史・医学概論、遺伝学、医学英語演習）も開講します。

3. 臨床医学コース

3年次2学期から4年次1学期までの1年間のコースです。ここでは、様々な疾病を多面的に把握しつつ、患者さんをひとりの人間として理解し、診察や検査、診断、治療の基本を学びながら、内科学、外科学、専門医学などの臨床医学の基本を学ぶカリキュラムを編成し、実施します。また、1か月間の医学研究演習では、研究室で実際の研究の方法や考え方を学び、基礎医学研究者や研究医となるための素養を磨く機会を提供します。

4年次1学期にコースが終わると、それまでに学んだ知識や技能を評価する全国共通の共用試験を実施します。「臨床実習コース」に進むには、これに合格しなければなりません。

4. 臨床実習コース

このコースでは2年間以上の長期間にわたり、臨床実習および関連する学習や試験等を実施します。

4年次2学期から5年次1学期までは、全ての診療科を少人数グループで回り、臨床の現場で医療スタッフとともに診療の一部に参加しながら、実際の診療の基礎を学ぶ実習です。この実習と並行して、臨床現場での課題や疑問を振り返りながら学ぶ臨床統合講義も開講します。社会医学の実習もこの時期に行います。

続く5年次2学期の6か月間は、さらに少人数に分かれてスタッフの一員として全面的に診療に参加する形で、基本的な領域の診療科(コア科)を、大学病院や学外の医療機関で4週間ずつ学ぶ実習です。

6年次1学期には、3か月間にわたり、各学生が興味や進路志望をもとに選択した診療科や分野で4週間ずつ学ぶ実習です。選抜された学生には、この期間等を利用して海外で実習する機会も用意しています。

6年次2学期には、このコースの仕上げとして、卒業後に役立つ実践的能力を身につける目的で、臨床病理学の講義や多職種連携・シミュレーション実習を開講します。6年次の2月には医師国家試験があります。

5年次からは、将来の基礎医学研究者や研究医を目指す学生のためにMD-PhDコースも用意しています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<https://www.hokudai.ac.jp/admission/admission-policy2023.pdf>)

(概要)

求める学生像

- ・ 強い学習意欲と多様な科目を履修していく基礎学力をもつ学生
- ・ 多様な事象に対し興味、理解力を持ち、共感とともに批判する能力をもつ学生
- ・ 積極性、堅実性とともに他者との協調性をもつ学生
- ・ 高い倫理観と強い責任感、そして敬虔な奉仕の精神を持ち、謙虚で高潔な使命感にあふれる学生

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 医学部保健学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.hokudai.ac.jp/pr/johokokai/pub/gakkyoho/gakkyoho3/index.html ）
（概要） 人類の健康増進に資するための体系的な教育を行うことにより、豊かな人間性、高い倫理観及び国際的視野を備え、医学、医療又は生命科学の実践及び発展に寄与する人材を養成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.hokudai.ac.jp/introduction/plan/policy/threehoushin/dpcp.html ）
（概要） 学位授与水準として定める以下の能力を身に付け、かつ、所定の基準を満たした学生に対し、学士の学位を授与します。
<p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保健科学・看護学のリーダーとしての幅広い教養と高い専門性を身につけている。 保健科学・看護学の実践者としての専門知識およびその知識体系を身につけている。 保健科学・看護学を取り巻く文化・歴史・社会・環境を理解することができる。 <p>【汎用的技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様化・複雑化する課題を発見し、その本質を理解できる能力を身につけている。 課題解決に必要な情報を収集し、分析・判断・解決できる能力を身につけている。 高い学問的および臨床的な探究心を有し、幅広く社会に還元することができる。 <p>【態度・志向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保健科学・看護学をリードし、チーム医療を実践できる能力を身につけている。 保健科学・看護学の実践者・研究者として、社会的責任感と自己管理能力を身につけている。 多様化する価値観の中で、高い倫理観を有し、実践することができる。 生涯にわたって最新の保健科学・看護学を理解し、実践することができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.hokudai.ac.jp/introduction/plan/policy/threehoushin/dpcp.html ）
（概要） 医学部保健学科では、学位授与水準に定めた能力を持つ人材を育成することを目標として、以下のとおりカリキュラムを編成し、実施します。
<ul style="list-style-type: none"> 主に1年次学生を対象とする全学教育科目では、専攻する分野にかかわらず、本学の学生であれば当然身につけておかなければならない共通の素養として、高いコミュニケーション能力、人間や社会の多様性への理解、独創的かつ批判的に考える能力、社会的な責任と倫理を身につけることを目的として、カリキュラムを編成します。具体的には「一般教育演習」、「総合科目」、「主題別科目」、「外国語科目」、「外国語演習」、「共通科目」に区分される教養科目(コアカリキュラム)を開講します。 また、専門科目を学ぶ心構え、基礎知識を身につけることができるように、基礎科目を開講します。 2年次以降では、看護学、放射線技術科学、検査技術科学、理学療法学、作業療法学の5専攻に分かれ、それぞれの専攻に関する専門性を深めるため、専門科目を開講します。専門科目では、医療を担うにふさわしい人間性と、高度医療を支える医学知識と技術を身につけることを目的として、教育課程を編成しています。 <p>各専攻の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）は、以下を参照してください。</p> <p>https://www.hs.hokudai.ac.jp/dohs/summary/</p>

入学者の受入れに関する方針（公表方法：
<https://www.hokudai.ac.jp/admission/admission-policy2023.pdf>）

（概要）

求める学生像

- ・ 広範な基礎知識及び専門知識を身につけるために必要な基礎学力・技能を有している学生
- ・ 多様化・複雑化する課題を発見し、その本質を分析・判断・解決する能力をもつ学生
- ・ 課題解決に必要な情報を収集し多様化する価値観の中で他者と協働しながら目標を達成することができる学生
- ・ 高い倫理観を持ち、他人の痛みを理解できる感性豊かで人間性あふれる学生

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 歯学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.hokudai.ac.jp/pr/johokokai/pub/gakkyoho/gakkyoho3/index.html ）
（概要） 口腔の健康管理を通じて全身の健康の保持増進を図るため、歯学及び歯科医療に関する専門的な知識及び技術を教授することにより、医療従事者としての職業倫理、豊かな人間性及び課題探求心を備えた歯科医師、歯学教育者及び研究者を育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.hokudai.ac.jp/introduction/plan/policy/threehoushin/dpcp.html ）
（概要） 学位授与水準として定める以下の能力を身に付け、かつ、所定の基準を満たした学生に対し、学士の学位を授与します。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療人としてのプロフェッショナリズムを獲得し、患者中心の歯科医療を支える豊かな人間性と倫理観を身につけている。 2. 歯学及び歯科医療に関する専門的な知識と技能を有し、また、関連医学と最先端歯科医療に関する十分な知識を身につけている。 3. 歯科医学研究の重要性を理解し、科学的妥当性・問題対応能力・課題探究心・創造性を身につけている。 4. 多様なニーズのある地域社会や国際社会に貢献する使命感と責任感を身につけている。 5. 患者や様々な医療従事者との適切なコミュニケーション能力を有し、チーム医療での高い協調性と歯科医師としての役割を理解・実践できる能力を身につけている。 6. 患者及び医療従事者にとって、良質で安全な医療を提供できる能力を身につけている。 7. 高度化する歯科医学・歯科医療を生涯にわたり主体的に自己学修し、常に省察し高い次元を求める能力を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.hokudai.ac.jp/introduction/plan/policy/threehoushin/dpcp.html ）
（概要） ・教養教育・基礎教育 1年次学生は総合教育部において、北海道大学のカリキュラム・ポリシーに沿った人材育成が行われます。 ・専門教育 歯科医師、歯学教育者及び研究者の育成にあたり、歯学教育モデルコアカリキュラムを網羅する基礎的教育を充分に行うとともに、歯科基礎医学および歯科臨床医学の各専門分野における発展的教育を積極的に行い、知識、技能、態度をバランス良く修得できるよう体系的に配置した専門科目をもって教育課程を編成・実施します。これにより、歯科医学における高度な学問的素養及び自律的に知的活動を展開させる能力の育成をはかります。また、歯学に必要な英語を修得する授業を配置し、留学機会を得る科目を設定して、国際的に活躍できる人材を育成します。 ・教育の質保証 各専門科目における厳正な成績評価を行うとともに、客観試験である共用試験に合格することを卒業認定に採用しています。歯学部教員の教育資質を高める教員研修、学修や進路相談等の学生支援、教育制度の評価により制度改革を持続的に進める教学評価を実施しています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：
<https://www.hokudai.ac.jp/admission/admission-policy2023.pdf>）

（概要）

求める学生像

- ・数学・理科・外国語を中心とした高等学校レベルの十分な知識・技能を身につけており、かつ同時に多数の教科を学ぶことのできる柔軟な学習能力を持った学生
- ・身につけた知識・技能を用いて初歩的な歯学的問題を解決しそれを説明するために、十分な思考力・判断力・表現力を身につけている学生
- ・歯科医学の発展に寄与したいと考えている学生。そのために多様な人々と協調して問題解決したいと考える学生
- ・歯科医療を通して人の生活の質を向上させることに主体的に奉仕したいと考えている学生
- ・歯科医療に関する専門的な知識や技術を習得するだけでなく、医療人としての倫理観や高い人間性を主体的に、多様な人々と協調して獲得したいと考えている学生

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 薬学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.hokudai.ac.jp/pr/johokokai/pub/gakkyoho/gakkyoho3/index.html ）
（概要） 生命の基本原理及び病因の解明、創薬の推進並びに国民の健康の保持増進に寄与するために、有機化学、生物化学及び物理化学並びに医療薬学及び臨床薬学に関する専門的な知識を教授することにより、創薬科学及び生命科学の分野における優れた研究者若しくは技術者又は医療の現場において指導的立場にある薬剤師若しくは医療薬学研究者を養成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.hokudai.ac.jp/introduction/plan/policy/threehoushin/dpcp.html ）
（概要） 学位授与水準として定める以下の能力を身に付け、かつ、所定の基準を満たした学生に対し、学士の学位を授与します。
<p>【薬学科】</p> <p>1 「豊かな教養と高い倫理観」</p> <ul style="list-style-type: none"> 国民の健康・福祉及び医療に関する専門的知識のみならず、広く自然や社会に関心を持つことで豊かな教養を備えるとともに、患者本位の視点から医療人として果たすべき使命と役割の理解につながる総合的判断力と高い倫理観を備えている。 <p>2 「専門的な知識・技術・技能」</p> <ul style="list-style-type: none"> 薬学の基礎となる物理化学、有機化学、生物化学を系統的に習得し、さらに専門性の高い創薬科学、生命科学、医療薬学を発展的に学ぶことで、指導的な立場で活躍できる薬剤師、臨床研究者、教育者として必要な知識・理論・技能を身につけている。 <p>3 「世界水準の研究」</p> <ul style="list-style-type: none"> 国民の健康・福祉及び医療における諸問題を薬学の立場から研究し、その成果を医療の現場に還元するため、情報収集力、研究企画・遂行力、論理的思考力、プレゼンテーション力を修得し、世界水準の独創的・先端的な研究を遂行することができる。 <p>4 「高い問題解決能力と行動力」</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療・薬学に関する問題のみならず、自然、社会的現象、科学的事象に関する問題点を的確に発見できる能力を持ち、自ら実証的かつ多面的な視点から論理的にその本質を分析し、立案した解決策を実行できる。 医療・薬学領域において、指導的な立場で活躍する薬剤師、臨床研究者、教育者となるため、自ら様々な事象・事実を確認・分析し、問題を解決するための対策を提案し実行できる。 <p>5 「国際的な視点と自己実現」</p> <ul style="list-style-type: none"> 薬学の社会的、文化的位置づけを理解し、薬学を学ぶものとして自己の目標を設定し、自己を評価検証できる。 医療・薬学領域のみならず、社会生活に求められるコミュニケーション能力、グローバル化に対応した国際感覚や言語力を有し、独創的・先端的な研究を国際的に発信することができる。 <p>【薬科学科】</p> <p>1 「豊かな教養と高い倫理観」</p> <ul style="list-style-type: none"> 国民の健康・福祉及び医療に関する専門的知識のみならず、広く自然や社会に関心を持ち、医療人として果たすべき使命と役割の理解につながる総合的判断力と高い倫理観に裏打ちされた豊かな教養を備えている。 <p>2 「専門的な知識・技術・技能」</p>

・ 薬学の基礎となる物理化学、有機化学、生物化学を系統的に習得し、さらに専門性の高い創薬科学、生命科学、医療薬学を発展的に学ぶことで、指導的な立場で活躍できる研究者、教育者、技術者として必要な知識・理論・技能を身につけている。

3 「世界水準の研究」

・ 国民の健康・福祉及び医療における諸問題を薬学の立場から研究し、その成果を医療の現場に還元するため、情報収集力、研究企画・遂行力、論理的思考力、プレゼンテーション力を修得し、世界水準の独創的・先端的な研究を遂行することができる。

4 「高い問題解決能力と行動力」

・ 薬学に関する問題のみならず、自然、社会的現象、科学的事象に関する問題点を的確に発見できる能力を持ち、自ら実証的かつ多面的な視点から論理的にその本質を分析し、立案した解決策を実行できる。

・ 薬学領域において、指導的な立場で活躍する研究者、教育者、技術者となるため、自ら様々な事象・事実を確認・分析し、問題を解決するための対策を提案し実行できる。

5 「国際的な視点と自己実現」

・ 薬学の社会的、文化的位置づけを理解し、薬学を学ぶものとして自己の目標を設定し、自己を評価検証できる。

・ 薬学領域のみならず、社会生活に求められるコミュニケーション能力、グローバル化に対応した国際感覚や言語力を有し、独創的・先端的な研究を国際的に発信することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

<https://www.hokudai.ac.jp/introduction/plan/policy/threehoushin/dpcp.html>)

（概要）

薬学部では、学位授与水準に定めた能力を持つ人材を育成することを目標として、学科毎にカリキュラムを編成し、実施します。

各学科の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）は、以下を参照してください。

https://www.pharm.hokudai.ac.jp/information/2021_11_diplomaCurriculum.pdf

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<https://www.hokudai.ac.jp/admission/admission-policy2023.pdf>)

（概要）

求める学生像

・ 生命科学や創薬科学の研究または医療薬学や医療薬学研究を通じて社会に貢献したいと考えている学生

・ 医療現場や医療薬学教育の場において、先導的な薬剤師・教育者として活躍したいと考えている学生

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 工学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.hokudai.ac.jp/pr/johokokai/pub/gakkyoho/gakkyoho3/index.html ）
（概要） 人類社会の将来の発展のための基盤である科学技術に関する幅広い知識と教養を教授することにより、工学の多様化に対応できる基礎的素養及び技術者又は研究者として必要な専門的知識を有し、技術開発に係る課題に的確に対応できる人材を育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.hokudai.ac.jp/introduction/plan/policy/threehoushin/dpcp.html ）
（概要） 工学部は、本学が掲げる4つの基本理念の下、21世紀の社会と環境に責任をもてる技術者および工学研究者の育成を目指すとともに、技術革新に果敢に挑戦し、新たな産業と文明を拓く高度職業人の育成を教育目標としています。 この目標とする人材像に求められる具体的な能力（学位授与水準）を学科ごとに定め、当該能力を身につけ、かつ、所定の単位を修得した者に学士の学位を授与します。 各学科の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）は、以下を参照してください。 https://www.eng.hokudai.ac.jp/commonfile/files/activities/diplomapolicy.pdf
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.hokudai.ac.jp/introduction/plan/policy/threehoushin/dpcp.html ）
（概要） 工学部は、学位授与方針で掲げる人材を養成するため、次の特色ある取組により各学科・コースの教育課程を編成・実施します。 ・1年次には、本学の学生に共通の素養として求められる高いコミュニケーション能力、人間や社会の多様性への理解、独創的かつ批判的に考える能力、社会的な責任と倫理を身につけることを目的として全学教育科目のカリキュラムを編成しています。 ・2年次以降では、応用理工系学科、情報エレクトロニクス学科、機械知能工学科および環境社会工学科の4学科に分かれて専門教育科目を開講します。専門教育科目は、学部共通、学科共通、コース専門の三つの分野に分かれて構成します。 ・コース専門科目は、コースの専門領域の科目群であり、主に必修科目として開講されます。 ・4年次には、コース専門科目に加えて卒業論文作成のための研究を実施します。 ・本学部の専門教育科目については、学科（・コース）ごとに教育課程編成・実施の方針を定め、それぞれ育成する人材像に沿ったカリキュラムを編成し、実施します。 各学科の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）は、以下を参照してください。 https://www.eng.hokudai.ac.jp/commonfile/files/activities/curriculumpolicy.pdf
入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.hokudai.ac.jp/admission/admission-policy2023.pdf ）
（概要） ・専門分野以外における広範で基礎的な専門知識を身につけるための、数学・理科・外国語を中心とした高等学校レベルの十分な知識・技能を身につけた学生 ・身につけた知識・技能を用いて初歩的な工学的問題を解決しそれを説明するための、十分な思考力・判断力・表現力を身につけた学生 ・身につけた専門知識を利用した具体的なモノづくりや、高度な科学・情報処理の原理に基づく応用技術に自ら関心を持ち、実際に社会で生じている様々な問題について、多様

な人達と協働して解決したいと考えている学生

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 農学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.hokudai.ac.jp/pr/johokokai/pub/gakkyoho/gakkyoho3/index.html ）
（概要） 人類の生存の基盤である食料、資源、エネルギー、環境等に関する問題の解決並びに農林業及びその関連産業の持続的発展に寄与するために、農学に関する体系的な教育を行うことにより、生物生産と環境との調和を図るための広い視野を有し、生物生産の状況の変化に即応できる高度な専門性を有する人材を育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.hokudai.ac.jp/introduction/plan/policy/threehoushin/dpcp.html ）
（概要） 学位授与水準として定める以下の能力を身に付け、かつ、所定の基準を満たした学生に対し、学士の学位を授与します。
<p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> 農学に関する生物資源科学、応用生命科学、生物機能化学、森林科学、畜産科学、生物環境工学、または農業経済学の各分野における専門的な幅広い知識および基礎的理論を体系的に身につけ、理解し、運用できる。当該分野の最近の研究動向について説明・コメントできる。 <p>【問題解決能力・論理的思考力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 農学の各分野において論点となる課題を設定し、調査・実験により論拠となるデータを示し、論理的に結論を与えることができる。 <p>【情報収集活用能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 文献情報等、必要に応じて適切な情報を探索することができ、情報を理解し正しく活用できる。 <p>【調査・実験能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要な調査および実験を設定でき、正確に実施することができる。 得られたデータを適切に分析・解析する数量的スキルを有する。 <p>【コミュニケーション技能・発信技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語および英語等を用いて、科学的議論、口頭発表および論文発表できる。 <p>【生涯学習力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業後も生涯にわたり学び続けるための、自己管理および主体的学習ができる。 市民としての責任を自覚し、倫理観を身に付け、社会の様々な課題に対応できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.hokudai.ac.jp/introduction/plan/policy/threehoushin/dpcp.html ）
（概要） 農学部では、人類の生存の基盤である農学分野に関する問題の解決並びに農林業および関連産業の持続的発展に寄与するために、生物生産と環境との調和を図ることのできる広い視野を持ち、生物生産の状況の変化に即応できる高度な専門性を有する人材を育成することを教育目標とし、これを達成するために農学を7つの観点から学ぶ7学科を設置しています。これらの学科では全学共通の「全学教育科目」及び体系的に配置された「学部専門科目」をもって、4年間の学士課程における教育課程を編成します。 本学部の専門科目については、学科毎に教育課程編成・実施の方針を定め、それぞれ育成する人材像に沿ったカリキュラムを編成し、実施します。 まず、学科にかかわらず主に1年次学生を対象として、全学教育科目を開講します。これは専門にかかわらず、共通の素養として、高いコミュニケーション能力、人間や社会の多様性への理解、独創的かつ批判的に考える能力、社会的な責任と倫理を身につけることを目的として、カリキュラムを編成します。具体的には「一般教育演習」、「総合科目」、

「主題別科目」、「外国語科目」、「外国語演習」、「共通科目」に区分される教養科目（コアカリキュラム）を開講します。また、専門科目を学ぶ心構えと基礎知識を身につけることができるように、基礎科目を開講します。

2年次以降の学生に対しては、農学部各学科に関わる専門性を深めるために、学部専門科目を開講します。

各学科の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）は、以下を参照してください。

<https://www.agr.hokudai.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2021/09/c65e50772bef723488fb82488b09943d.pdf>

入学者の受入れに関する方針（公表方法）：

<https://www.hokudai.ac.jp/admission/admission-policy2023.pdf>

（概要）

求める学生像

- ・ 基礎生物学と応用生物学をつなぐ研究を志す学生
- ・ 環境と生物の相互作用ならびにフィールドサイエンスに興味のある学生
- ・ 自然環境保全とリサイクル型の資源利用に関心のある学生
- ・ バイオサイエンスやバイオテクノロジーを学びたい学生
- ・ 食料生産技術を通じて社会に貢献する意欲のある学生

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 獣医学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.hokudai.ac.jp/pr/johokokai/pub/gakkyoho/gakkyoho3/index.html ）
（概要） 動物の健康の保持増進、公衆衛生の向上、食の安全及び生命科学の発展に寄与するために、獣医学に関する専門的な知識及び技術を教授することにより、豊かな人間性、高い生命倫理観及び国際的視野を備えた獣医師及び獣医学に関する創造性を有する研究者を養成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.hokudai.ac.jp/introduction/plan/policy/threehoushin/dpcp.html ）
（概要） 学位授与水準として定める以下の能力を身に付け、かつ、所定の基準を満たした学生に対し、学士の学位を授与します。 【知識・理解および技能】 ・ 獣医師としての任務を遂行するための論理性及び倫理性に裏打ちされた行動規範を身につけている。 ・ 動物疾病の予防・診断・治療、動物の健康の維持増進、公衆衛生等に関する卓越した知識・技能を身につけている。 ・ 安定的な食料供給、家畜の衛生管理及び畜産物の安全確保、人獣共通感染症対策など地球規模の課題の解決に貢献するための国際的視点と知識・技能を身につけている。 ・ 最先端の生命科学研究に触れ、生命現象の新たな発見や医薬品の開発などにおいて獣医学を基礎とした課題解決能力と国際的な活動を実践する能力を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.hokudai.ac.jp/introduction/plan/policy/threehoushin/dpcp.html ）
（概要） 獣医学部では、多様な獣医学の社会的使命を理解し、高い動物生命倫理観、科学的な思考力と判断力および国際的な視野を備えた、創造性と人間性豊かな獣医師となる人材の育成という教育目標を達成するため、共同獣医学課程を設置しています。共同獣医学課程では、全学共通の「全学教育科目」と体系的に配置された「専門科目」をもって、6年間の学士課程における教育課程を編成します。本学部の専門科目については、教育課程編成・実施の方針を定め、育成する人材像に沿ったカリキュラムを編成し、実施します。 ・ 主に1年次学生を対象とする全学教育科目では、専攻する分野にかかわらず、本学の学生であれば当然身につけておかなければならない共通の素養として、高いコミュニケーション能力、人間や社会の多様性への理解、独創的かつ批判的に考える能力、社会的な責任と倫理を身につけることを目的として、カリキュラムを編成します。具体的には「一般教育演習」、「総合科目」、「主題別科目」、「外国語演習」、「共通科目」に区分される教養科目（コアカリキュラム）を開講します。また、専門科目を学ぶ心構え、基礎知識を身につけることができるように、基礎科目を開講します。 ・ 2年次以降では、獣医学に関する専門性を深めるため、専門科目を開講します。専門科目では、獣医学の基礎・病態・応用及び臨床にわたる高度の知識と技術を教授することを目的として、4つの獣医学専門科目群（基礎獣医学科目、病態獣医学科目、応用獣医学科目、臨床獣医学科目）と獣医学関連科目群（獣医学導入科目、獣医師導入科目、畜産関連科目）から成る教育課程を編成します。なお一部の獣医学導入科目については、1年次より開講します。

- ・ 2年次では、動物体内の仕組み、反応や病気の基礎を学ぶため、解剖学、生理学、生化学、薬理学、免疫学、放射線生物学、微生物学、実験動物学などの講義や実習を履修します。アニマルウェルフェアに配慮した高い動物生命倫理観を培うため、獣医倫理・動物福祉を学びます。また、草地飼料学、基礎動物栄養学、短期現地実習といった周辺領域も学びます。さらに、国際的視点を養うため、国際獣医師人材養成プログラムを2～5年次に展開し、英語でのコミュニケーション能力を高めます。
- ・ 3年次では、微生物学、感染症学、原虫病学、寄生虫・寄生虫病学、魚病学、病理学、野生動物学などの講義や実習を通して、動物の病気の原因となる因子やその解析手法の基礎について学びます。さらに、食品衛生学、動物衛生学、公衆衛生学・毒性学などの環境科学の講義を通して、多様な獣医学の社会的使命を理解します。また、内科学、臨床診断学といった臨床獣医学に関する講義、ならびに臨床の基本技能を身につけるためのプレクリニカル実習が開講されます。
- ・ 4年次では、環境毒性学・環境衛生学、獣医疫学、人獣共通感染症学といった応用獣医学とともに、外科学、繁殖学、臨床腫瘍学などの臨床獣医学ならびにプレクリニカル実習が開講されます。さらに獣医師導入教育として、獣医コミュニケーション演習、獣医法規などが加わります。また、国際的活動の基礎となる獣医学専門セミナー（英語演習）を受講し、後期には研究室に仮配属（課題研究）します。4年次の年度末に全国共通の獣医学共用試験を受験します。
- ・ 5年次および6年次では、附属動物病院などにおける診療に立ち会い、獣医療の実際を体験する参加型臨床実習を実施します。また、いずれかの研究室に所属し、卒業後の職域や興味をひく研究分野を考慮し、アドバンスト演習を受講します。さらには、課題研究の合間に大学院博士課程の入試対策や就職活動など、将来の獣医師および獣医学研究者としての責任を身につけていきます。獣医師国家試験が例年2月中旬に実施され、3月中旬に合格発表があります。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<https://www.hokudai.ac.jp/admission/admission-policy2023.pdf>)

（概要）

求める学生像

- ・ 獣医学を学び理解できる基礎学力を有する学生
- ・ 社会の倫理的問題に知的好奇心を持つ学生
- ・ 動物を愛するとともに、動物を科学的視点から客観的に観察・思考することのできる学生
- ・ 生命現象に対して、畏敬の気持ちと科学的な探究心をもつ学生
- ・ 動物に関する課題を科学的に判断し、表現できる学生
- ・ 獣医学を通じて主体的に社会貢献したいと考える学生
- ・ 獣医学に関わる国内・国際的問題を多様な人々と協働して解決したいと考える学生

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 水産学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.hokudai.ac.jp/pr/johokokai/pub/gakkyoho/gakkyoho3/index.html ）
（概要） 水産科学に関する専門知識及びこれに関連する広範な分野に関する科学的知識を体系的に教授することにより、水圏における生物資源の持続的な生産及び総合的な利用並びに環境の保全に関する課題を解決するために必要な能力を有する人材を育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.hokudai.ac.jp/introduction/plan/policy/threehoushin/dpcp.html ）
（概要） 学位授与水準として定める以下の能力を身に付け、かつ、所定の基準を満たした学生に対し、学士の学位を授与します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 多様な教養科目の履修を通して、幅広い教養、高いコミュニケーション能力、人間や社会の多様性への理解、独創的かつ批判的に考える能力、社会的な責任と倫理観を身につけている。 ・ 専門科目として、水産学部共通科目のほか、各学科の専門教育分野に関連した学科基盤型科目、学科深化型科目の体系的履修を通して、水産科学に関する幅広い知識と各学科の専門科目の内容を深く理解し、それらに関連する科学実験・実習の基礎的な知識と技術を身につけている。 ・ 卒業研究や演習、論文講読を通して、着想力、探究心、論理的思考力、説得力、表現力、判断力、問題解決力、研究企画力などの総合的な能力を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.hokudai.ac.jp/introduction/plan/policy/threehoushin/dpcp.html ）
（概要） 水産学部では、水産科学に関する専門知識と関連する広範な分野の科学的知識を体系的に教授することにより、水圏における生物資源の持続的な生物生産、総合的な利用、および環境の保全に関する課題を解決するために必要な能力を有する人材を育成するという教育目標を達成するため、1) 海洋生態系を構成する多様な生物の形態、生態、行動、生活史、進化ならびにその生産を支える海洋環境等を学ぶ海洋生物科学科、2) 物理学、生物学、社会科学を基礎として生物資源と海洋環境の探査計測、情報解析ならびに生産システムの構築に関する理論と技術を学ぶ海洋資源科学科、3) 海洋生物資源の効率的かつ合理的な増養殖生産をめざし、海洋生物の多様な繁殖力を究明するために必要な増殖生命科学に関する基礎知識と先端技術を学ぶ増殖生命科学科、4) 海洋の生物資源を総合的にかつ有効に活用するための基礎理論と高度な技術を学ぶ資源機能化学科を設置しています。これらの学科では、全学共通の「全学教育科目」と体系的に配置された「専門科目」をもって、4年間の教育課程を編成します。 <p>本学部の専門科目については、学科ごとに教育課程編成・実施の方針を定め、それぞれ育成する人材像に沿ったカリキュラムを編成し、実施します。また本学部では、講義を通して培った知識や思考力をフィールドで活用する能力を養うため、本学部附属練習船を使った洋上での実習を実施するなど、特色のある教育を実施します。</p> <p>各学科の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）は、以下を参照してください。 https://www2.fish.hokudai.ac.jp/department-graduate-school/school-of-fisheries-sciences/page-183.html</p>

入学者の受入れに関する方針（公表方法：
<https://www.hokudai.ac.jp/admission/admission-policy2023.pdf>）

（概要）

求める学生像

- ・ 水圏の環境や生物・資源に強い関心があり、水圏環境と生物生産の調和を目指して社会に貢献する意欲のある学生
- ・ 水圏生物やその成分の機能を学び、水圏生物資源を合理的な方法で利用することで、健全な人類の発展を目指して社会に貢献する意欲のある学生
- ・ 将来、海洋・水産・環境分野における政策、管理などに関する国内外の機関やプロジェクトに参加して活躍する意欲のある学生

② 教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：

<https://www.hokudai.ac.jp/pr/johokokai/pub/gakkyoho/gakkyoho6/index.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	5人	—					5人
水産学部	—	0人	2人	0人	7人	0人	9人
法学研究科	—	42人	10人	0人	4人	2人	58人
水産科学研究所	—	25人	24人	0人	21人	0人	70人
地球環境科学研究所	—	19人	24人	0人	11人	1人	55人
理学研究所	—	77人	59人	14人	40人	1人	191人
薬学研究所	—	17人	11人	7人	26人	0人	61人
農学研究所	—	44人	38人	17人	20人	0人	119人
先端生命科学研究所	—	10人	7人	2人	9人	1人	29人
教育学研究所	—	15人	15人	4人	1人	1人	36人
メディア・コミュニケーション研究所	—	26人	33人	2人	7人	0人	68人
保健科学研究所	—	19人	18人	7人	26人	0人	70人
工学研究所	—	91人	103人	2人	80人	0人	276人
経済学研究所	—	15人	17人	2人	5人	0人	39人
医学研究所	—	40人	37人	15人	85人	1人	178人
歯学研究所	—	21人	17人	0人	38人	0人	76人
獣医学研究所	—	19人	19人	5人	17人	0人	60人
文学研究所	—	56人	26人	3人	12人	0人	97人
情報科学研究所	—	46人	36人	4人	16人	0人	102人
公共政策学連携研究部	—	11人	8人	0人	0人	0人	19人
附属病院	—	16人	21人	54人	161人	0人	252人
附置研究所	—	57人	43人	11人	73人	0人	184人
その他	—	95人	87人	19人	81人	1人	283人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
5人		1342人					1347人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)	公表方法： https://www.hokudai.ac.jp/pr/johokokai/pub/gakkyoho/gakkyoho1/index.html						
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>本学では、FD、SDに関する研修の実施および学生支援を行うため、2015年4月に高等教育研修センターを設置しており、同年から文部科学省が実施する教育関係共同利用拠点（大学職員の組織的な研修等の実施機関）に指定されている。</p> <p>センターはFD部門、SD部門、LS(Learning Support)部門で構成され、FD部門にはFDに関する専門家である専任教員2名の他、兼任教員4名を置き、授業デザイン・評価、教授技法、高等教育リテラシー、学生支援、マネジメント、コミュニケーションや大学院生へのプレFDといった様々な研修を実施している。</p>							

令和4（2022）年度には28回の研修を実施し、教員を中心に1670名の受講者があった。また、過去に実施した研修の動画を中心に、19件の研修をオンデマンドで配信し、629名の受講者があった。さらに、各学部単位でもFDに関する研修を実施しており、令和4（2022）年度の教員のFD受講率は89%となっている。

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学部	155人	159人	102.6%	710人	785人	113%	0人	0人
教育学部	30人	32人	106.7%	200人	221人	118%	10人	9人
法学部	180人	184人	102.2%	830人	878人	106%	20人	16人
経済学部	160人	164人	102.5%	730人	776人	111%	0人	0人
理学部	96人	96人	100.0%	996人	1,107人	112%	10人	10人
医学部医学科	90人	90人	100.0%	657人	663人	103%	5人	5人
医学部保健学科	171人	173人	101.2%	711人	724人	103%	0人	0人
歯学部	43人	43人	100.0%	308人	301人	100%	0人	0人
薬学部薬科学科	24人	29人	120.8%	324人	341人	103%	0人	0人
薬学部薬学科								
工学部	172人	174人	101.2%	2,202人	2,335人	107%	10人	27人
農学部	53人	53人	100.0%	698人	718人	102%	0人	0人
獣医学部	35人	37人	105.7%	235人	248人	106%	0人	0人
水産学部	175人	184人	105.1%	820人	839人	102%	0人	0人
総合教育部文系	95人	99人	104.2%	95人	107人	106%	0人	0人
総合教育部文系 国際総合入試	5人	2人	40.0%	5人	4人	80%	0人	0人
総合教育部理系 数学重点選抜群	125人	129人	103.2%	125人	141人	109%	0人	0人
総合教育部理系 物理重点選抜群	225人	226人	100.4%	225人	236人	103%	0人	0人
総合教育部理系 化学重点選抜群	226人	233人	103.1%	226人	241人	104%	0人	0人
総合教育部理系 生物重点選抜群	169人	173人	102.4%	169人	191人	110%	0人	0人
総合教育部理系 総合科学選抜群	239人	241人	100.8%	239人	253人	104%	0人	0人
総合教育部理系 国際総合入試	10人	4人	40.0%	10人	9人	90%	0人	0人
合計	2,478人	2,525人	101.9%	10,515人	11,118人	105.7%	55人	67人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文学部	183人 (100%)	29人 (15.8%)	131人 (71.6%)	23人 (12.6%)
教育学部	61人 (100%)	15人 (24.6%)	35人 (57.4%)	11人 (18.0%)
法学部	205人 (100%)	47人 (22.9%)	137人 (66.8%)	21人 (10.2%)
経済学部	205人 (100%)	20人 (9.8%)	166人 (81.0%)	19人 (9.3%)
理学部	322人 (100%)	253人 (78.6%)	47人 (14.6%)	22人 (6.8%)
医学部医学科	119人 (100%)	1人 (0.8%)	1人 (0.8%)	117人 (98.3%)
医学部保健学科	183人 (100%)	71人 (38.8%)	99人 (54.1%)	13人 (7.1%)
歯学部	58人 (100%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	58人 (100.0%)
薬学部薬科学科	47人 (100%)	43人 (91.5%)	2人 (4.3%)	2人 (4.3%)
薬学部薬学科	29人 (100%)	5人 (17.2%)	24人 (82.8%)	0人 (0.0%)
工学部	695人 (100%)	572人 (82.3%)	97人 (14.0%)	26人 (3.7%)
農学部	209人 (100%)	161人 (77.0%)	30人 (14.4%)	18人 (0.1%)
獣医学部	41人 (100%)	7人 (17.1%)	30人 (73.2%)	4人 (9.8%)
水産学部	201人 (100%)	158人 (78.6%)	37人 (18.4%)	6人 (3.0%)
合計	2,558人 (100%)	1,382人 (54.0%)	836人 (32.7%)	340人 (13.3%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 主な進学先：北海道大学大学院 主な就職先：札幌市役所、北海道大学病院、ニトリ、北海道電力、北海道庁、北洋銀行、 日本政策金融公庫、楽天グループ				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
文学部	192人 (100%)	147人 (76.6%)	39人 (20.3%)	5人 (2.6%)	1人 (0.5%)
教育学部	59人 (100%)	49人 (83.1%)	10人 (16.9%)	0人 (0.0%)	
法学部	220人 (100%)	187人 (85.0%)	29人 (13.2%)	3人 (1.4%)	1人 (0.5%)
経済学部	195人 (100%)	165人 (84.6%)	24人 (12.3%)	6人 (3.1%)	
理学部	321人 (100%)	273人 (85.0%)	42人 (13.1%)	6人 (1.9%)	
医学部医学科	112人 (100%)	98人 (87.5%)	11人 (9.8%)	3人 (2.7%)	
医学部保健学科	186人 (100%)	170人 (91.4%)	13人 (7.0%)	3人 (1.6%)	
歯学部	53人 (100%)	45人 (84.9%)	4人 (7.5%)	3人 (5.7%)	1人 (1.9%)
薬学部薬科学科	45人 (100%)	42人 (93.3%)	3人 (6.7%)	0人 (0.0%)	
薬学部薬学科	31人 (100%)	29人 (93.5%)	1人 (3.2%)	1人 (3.2%)	
工学部	716人 (100%)	600人 (83.8%)	93人 (13.0%)	19人 (2.7%)	4人 (0.6%)
農学部	221人 (100%)	205人 (92.8%)	16人 (7.2%)	0人 (0.0%)	
獣医学部	42人 (100%)	38人 (90.5%)	3人 (7.1%)	1人 (2.4%)	
水産学部	214人 (100%)	175人 (81.8%)	28人 (13.1%)	10人 (4.7%)	1人 (0.5%)
合計	2,607人 (100%)	2,223人 (85.3%)	316人 (12.1%)	60人 (2.3%)	8人 (0.3%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

本学では、各学部で定めている成績評価基準のガイドラインにおいて、授業計画（シラバス）への記載方法を示しているほか、シラバス作成にあたっての留意事項を学内で共有し、統一的な運用を図っている。

なお、作成したシラバスについては、組織的な点検体制を整備したうえで内容を確認することとしている。

各学部の授業計画（シラバス）は、同ガイドライン及び留意事項に基づき、開講前年度の12月頃から作成を開始し、概ね3月初旬頃に本学ホームページに公表している。

授業計画（シラバス）には以下の項目を記載することを必須としており、各担当教員は、前年度における成績評価の分布状況や授業アンケートの結果等を踏まえて翌年度の授業計画（シラバス）を作成している。

また、近年の大学のグローバル化による留学生の増加を受け、2019年度から、学部・大学院のすべての科目は、日本語に加えて英語の授業計画（シラバス）も作成することとした。

<授業計画（シラバス）への記載項目>

- ・ナンバリングコード
- ・キーワード
- ・授業の目標
- ・到達目標
- ・授業計画
- ・準備学習（予習・復習）等の内容と分量
- ・成績評価の基準と方法
- ・有する実務経験と授業への活用
- ・実務経験のある教員等による授業科目該当有無

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）

本学では、全学的な方針に則して各学部において策定した成績評価基準のガイドラインに基づき、授業科目ごとに適切な成績評価を行っている。

各学部では、当該ガイドラインの中で「成績評価の基準」、「成績評価の方法」及び「授業計画（シラバス）への記載方法」について予め定めており、さらに、授業計画（シラバス）の記載項目である「成績評価の基準と方法」に関して、試験のみによる評価の場合、試験及び授業への参加意欲等による評価の場合、レポートによる評価の場合、アクティブ・ラーニング科目の場合等、様々な形態に応じた評価方法の記載例を明示している。

各授業担当教員は、それぞれの授業科目に応じた「成績評価の基準と方法」を授業計画（シラバス）に記載し、当該基準に則して学生の学修成果を厳格かつ適正に評価し、単位を認定している。

また、卒業の認定に当たっての基準については、本学が建学の精神として掲げている4つの基本理念（「フロンティア精神」、「国際性の涵養」、「全人教育」及び「実学の重視」）に基づき、学部ごとに教育目標を定め、目標に応じて適切な教育課程を構築している。この教育課程による学修を通じ、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを示した学位授与水準（学力・能力・資質）を定めており、これらのことを「北海道大学学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」及び「各学部の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」として策定し、公表している。

各学部では、この「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」、卒業に必要とする単位の修得状況及び予め定めたGPAの基準を踏まえ、卒業を認定している。

また、各学部で定める「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」で示した教育目標の到達度を高めるため、各学部において「アセスメント・ポリシー」を策定している。同ポリシーに基づき、教学アセスメント（教育に関する各種データ・資料等の収集、分析、点検、評価）を実施することにより、教育の内部質保証や教育改善に関するPDCAサイクルを担保し、教育の質や学修成果の水準を継続的に保証する体制を整えている。

「北海道大学学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」

北海道大学の学士課程教育は、世界における市民としての自覚をもって社会に参加できること、専門の基礎となる学問やコミュニケーションの方法を身につけること、専門分野を広い視野の下に学ぶことをめざした教育を進めています。それを通じて、国際的に通用する高度な学

問的素養をもち、的確な判断力とリーダーシップを発揮する人材を育成します。すなわち、本学は卒業生に対し、多様な文化を理解し、人類の未来に寄与する創造的かつ指導的役割を担い
 うる人材であることを求めます。

こうした人材を育成するため、本学では、4つの基本理念の下、学部ごとに教育理念、教育
 目標を定め、常に先進的な教育を行います。各学部の教育課程により学業を修め、学部・学科
 等ごとに定められた学位授与水準（学力・能力・資質）を満たし、上記能力を持つ人材として
 認められる学生に対し、学士の学位を授与します。

※ 各学部の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）については、「様式第2号の4-①（3）
 ①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、
 入学者の受入れに関する方針の概要」に掲載。

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部	人文科学科	132 単位	有	25 単位
教育学部	教育学科	124 単位	有	25 単位
法学部	法学課程	132 単位	有	25 単位
経済学部	経済学科	146 単位	有	24 単位
	経営学科	146 単位	有	24 単位
理学部	数学科	126 単位	有	25 単位
	物理学科	126 単位	有	25 単位
	化学科	126 単位	有	22 単位
	生物科学科	126 単位	有	25 単位
	地球惑星科学科	126 単位	有	25 単位
医学部	医学科	204 単位	有	— 単位
	保健学科(看護学専攻)	139 単位	有	— 単位
	保健学科(放射線技術科学専攻)	145 単位	有	— 単位
	保健学科(検査技術科学専攻)	138 単位	有	— 単位
	保健学科(理学療法学専攻)	139 単位	有	— 単位
	保健学科(作業療法学専攻)	138 単位	有	— 単位
歯学部	歯学科	235 単位	有	— 単位
薬学部	薬科学科	149.5 単位	有	— 単位
	薬学科	205.5 単位	有	— 単位
工学部	応用理工系学科	127 単位	有	25 単位
	情報エレクトロニクス学科	130 単位	有	25 単位
	機械知能工学科	130 単位	有	25 単位
	環境社会工学科	126 単位	有	25 単位
農学部	生物資源科学科	126 単位	有	25 単位
	応用生命科学科	126 単位	有	25 単位
	生物機能化学科	127 単位	有	25 単位
	森林科学科	126 単位	有	25 単位
	畜産科学科	126 単位	有	25 単位
	生物環境工学科	126 単位	有	25 単位
	農業経済学科	126 単位	有	25 単位
獣医学部	共同獣医学課程	195 単位	有	— 単位
水産学部	海洋生物科学科	126 単位	有	25 単位
	海洋資源科学科	126 単位	有	25 単位

	増殖生命科学科	126 単位	有	25 単位
	資源機能化学科	126 単位	有	25 単位
G P A の活用状況 (任意記載事項)		公表方法： https://www.hokudai.ac.jp/pr/gakusyu-gakubu2.pdf		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法： https://www.hokudai.ac.jp/gakusei/campus-life/note/		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法： https://www.hokudai.ac.jp/pr/johokokai/pub/gakkyoho/gakkyoho9/index.html
--

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
文学部	人文科学科	535,800 円	282,000 円	4,300~28,000 円	<ul style="list-style-type: none"> ・「その他」欄は宿舎費 (月額)であり、入居す る場合のみ生じる費用で ある。 ・宿舎の種別によって額 は異なる
教育学部	教育学科				
法学部	法学課程				
経済学部	経済学科				
	経営学科				
理学部	数学科				
	物理学科				
	化学科				
	生物科学科				
	地球惑星科学科				
医学部	医学科				
	保健学科				
歯学部	歯学科				
薬学部	薬科学科				
	薬学科				
工学部	応用理工系学科				
	情報エレクトロニ クス学科				
	機械知能工学科				
	環境社会工学科				
農学部	生物資源科学科				
	応用生命科学科				
	生物機能化学科				
	森林科学科				
	畜産科学科				
	生物環境工学科				
農業経済学科					
獣医学部	共同獣医学課程				
水産学部	海洋生物科学科				
	海洋資源科学科				
	増殖生命科学科				
	資源機能化学科				

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

(概要)

○ラーニングサポート室 (LSO)

主に1年次学生を対象とし、修学設計支援(修学設計相談や進路選択の参考資料であるアカデミック・マップの作成など)、学習支援(学習サポートやセミナーの開催、学習資料の作成、配布など)、データ分析(学部・学科移行関係データや学生アンケートの分析など)を行っている。

・修学設計相談

学部、学科、研究室等の進路選択、移行及び分属に関する不安といった大学での修学設計に関する相談を、専属の教員が受け付けている。また、学部間の横断的な見識を持つアカデミック・アドバイザー(本学教員が兼任)との面談も可能である。

・アカデミック・マップ

各学部で行われている研究内容を表すキーワードをテーマ・カテゴリー/学部・学科ごとに整理したアカデミック・マップを作成しており、ウェブサイト上で公開している。

・学習サポート

理系基礎科目やレポート作成などに関する質問や相談に、大学院生チューターが対応している。自習スペースも用意している。

・LSOセミナー

レポートの書き方など総合的な学習スキルについてのセミナーや、少人数ゼミ形式の英語学習支援である英会話イベントを開催している。

・学習資料の作成、配布

数学、物理学、化学、統計学について要点をまとめた学習資料の作成及び配布を行っている。

・データ分析

支援や制度の検証及び改善を目的として、サポートデータやアンケートの分析及びフィードバックを行っている。

○学生相談総合センターピアサポートユニット

学生の視点に立つピアサポーターが、学生(日本人学生、留学生、障害のある要支援学生)がより良い学生生活を送ることのできるよう、下記3部門がさまざまな活動を行っている。3部門を統合するボードを中心に、3部門が合同で企画・実施しているプロジェクトも始まっており、今後の多面的な活動の展開が期待される。

・学生相談部門ピアサポート

学生生活上の諸問題へのアドバイスを必要とする学生(日本語を話す学生)に対して、ピアサポーターが学生の立場で助言、支援等を行い、適切かつ必要な場合は学生相談室・アクセシビリティ支援室・留学生相談室に繋ぐとともに、学生の視点で、学生のニーズに応じたさまざまなイベント企画や、大学からの学生支援に関するアイデア出し等を行うことにより、学生が充実した学生生活を送ることのできるよう、多面的な支援を行っている。

・留学生部門(留学生サポート・デスク)

留学生の生活相談(日本語・英語・中国語・その他)に対して、ピアサポーターが学生の立場で助言や情報提供を行い、適切かつ必要な場合はアクセシビリティ支援室・留学生

相談室に繋ぐとともに、留学生のための多様なイベントを企画・開催し、外国人留学生と日本人学生との交流を促進して、外国人留学生の日本語や英語のコミュニケーション能力・文化理解の向上を促すことにより、異文化における留学生の学生生活を支援している。

・アクセシビリティ部門

聴覚障害や視覚障害、肢体不自由などにより修学や研究上配慮を必要とする学生に対して、特別の研修を受けた支援学生がアクセシビリティ支援室の相談員の指導の下でノートテイクや文献電子化の支援等を行い、障害を抱える学生の学修環境の整備を支えている。また、障害を抱える学生が学内で快適な学生生活を過ごすことができるよう、学生の視点で、必要な支援や学生への広報・啓発のあり方に関するアイデア出しや実践等も行っている。

○入学科及び前期分授業料の徴収猶予について

入学科及び前期分授業料の減免を申請している学生については、入学科及び前期分授業料の徴収を猶予している。

2023年度の申請については、減免の判定結果において全額減免とならなかった学生の納入期限は、入学科は8月10日、前期分授業料は8月31日としている。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

○キャリアセンター

全国から数多くの企業が参加する「企業研究セミナー」の開催、実践型の就職対策講座や国家総合職を中心とした公務員試験講座の実施、就職相談などの多彩な就職支援のほか、高等教育推進機構と連携しインターンシップを通じた学生のキャリア教育支援を行っている。

就職相談においては、国家資格キャリアコンサルタントの有資格者がテーマに応じて対応し、相談体制を充実させている。

また、ホームページや就職支援システムを活用して各種企画の案内や求人情報を提供し、センター内にはOB・OG名簿や就職サポーター名簿、国家公務員試験過去問題、就職関連書籍等の資料を取り揃え、学生の利便性を図っている。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

○学生相談総合センター

2018年度に、「学生相談室」「アクセシビリティ支援室」「留学生相談室」を包括的に統合した学生相談の拠点機関として学生相談総合センターを設置し、臨床心理・障害者支援の専門家による学生相談体制を強化するとともに、その機能を拡充した。

・学生相談室

学生生活を送る上での様々な悩み（履修・勉強方法等修学上の問題、進学・就職等進路上の問題、家庭や友人関係等）に関して、専門のカウンセラー（臨床心理士）が、学生本人、学生を指導する教職員及び保護者からの相談に応じ、その解決のために適切な助言・援助を行っている。

・留学生相談室

異文化のなかで新しい環境において勉強や研究を始めることへの不安、学業、進路、人間関係や文化的適応など、留学生が抱える様々な悩みに関して、専門のカウンセラー（臨床心理士）が、学生本人、学生を指導する教職員からの相談に応じ、その解決のために適切な助言・援助を行っている。これから海外留学を行う、または海外留学を希望している本学の学生や、海外留学後の本学の学生の文化適応や心理的な相談も、可能な範囲で行っている。

・アクセシビリティ支援室

視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、発達障害、精神障害、慢性疾患、難病などのため、学生が抱えている修学及び研究上の困難に関して、学生本人、学生を指導する教職員、関係部局からの相談に応じ、適切な助言を行うとともに、当該学生が学修や研究を行う上で必要とする合理的な配慮のコーディネートを通じて、適切な支援を提供している。

○保健センター

保健衛生に関する専門的業務を行い、本学の学生及び教職員の疾病の予防及び健康の保持増進を図るために、専門職種（専門医・カウンセラー・看護師・臨床検査技師）による診療、カウンセリング、簡易検査、健康相談、応急処置などを行っている。

また、学生の健康状態を把握し、診断書・健康診断証明書の発行を行っており、毎年度当初に学生定期健康診断を実施している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.hokudai.ac.jp/pr/johokokai/pub/gakkyoho/>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F101110100010
学校名	北海道大学
設置者名	国立大学法人北海道大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		620人	621人	659人
内訳	第Ⅰ区分	337人	352人	
	第Ⅱ区分	200人	175人	
	第Ⅲ区分	83人	94人	
家計急変による支援対象者（年間）				－
合計（年間）				669人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期	
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	-			
修得単位数が標準単位数の5割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下）	-			
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人			
「警告」の区分に連続して該当	22人			
計	41人			
（備考） 複数の区分に該当する者あり。「計」欄は実人数を記載。				

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（2）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
年間	0人	前半期	後半期

（3）退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	0人		
G P A等が下位4分の1	50人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人		
計	50人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。